

学習観光・
まちなか産業観光

歴史や史跡などの講義と現地見学を織り交ぜた「学習観光」、地域の地場産業の魅力を観光資源として紹介する「まちなか産業観光」を、それぞれ、昨年10月から12月にかけて2回実施しました。

「学習観光」では、備中松山城を中心とした「高梁の歴史を学ぶコース」、吹屋ふるさと村を中心とした「高梁の産業史を学ぶコース」の1泊2日のツアーを実施。臼井洋輔・吉備国際大学教授の講義を受けてから、現地での見学や体験に出かけました。

また「まちなか産業観光」では、雛人形や菓子を製造販売する事業所、映画ロケ地となった旅館や事業所、吉備国際大学など、日頃見ることでできない場所を巡る日帰りツアーが行われました。

ただ観て終わるのではなく、自ら学び体験する新しい観光スタイルに、市内外から集まった参加者からは、参加してよかつ

19年度「学習観光」「まちなか産業観光」年間計画

各プランの詳細については、JR主要駅などにある参加者募集チラシをご覧ください。

学習観光「高梁の歴史と文化に触れる旅」(1泊2日プラン)

開催日	プラン	主な内容
6月15日(金) ～16日(土)	吹屋ふるさと村と 自然・文化めぐりコース	講義「銅山、ベンガラ産業の歴史」 広兼邸、吹屋ふるさと村、備中神楽鑑賞、西江邸(ベンガラ染め体験)、 磐窟溪、成羽町美術館 など
7月28日(土) ～29日(日)	成羽愛宕大花火と 吹屋ふるさと村コース	講義「成羽愛宕大花火と吹屋の歴史」 成羽町美術館、磐窟溪、花火観賞、広兼邸、ベンガラ陶芸館(絵付け体験)、 吹屋ふるさと村 など
11月16日(金) ～17日(土)	城下町高梁と 備中松山城コース	講義「備中松山城の歴史」 頼久寺、石火矢町ふるさと村、商家資料館、備中神楽鑑賞、備中松山城、 大松山 など

●参加費/15,000円 ●定員/25人

まちなか産業観光(日帰りプラン)

開催日	プラン	主な内容
5月18日(金)	有漢・高梁連携コース	ミニ鯉のぼり人形づくり体験、映画ロケ地を訪ねるまち歩き、有漢地域の事業所見学 など
6月8日(金)	まちなか産業観光コース	映画ロケ地や菓子店などを巡るまち歩き、順正短期大学や自動車学校の見学 など
9月27日(木)	ぐるり高梁コース	木工体験、ゴルフ場や漬物工場の見学、ケーブルテレビスタジオ見学 など
10月11日(木)	吹屋・成羽産業観光コース	吹屋ふるさと村の町並み散策、神楽人形の絵付け体験、成羽地域の事業所見学 など
11月7日(水)	城下町探訪コース	定林寺(水谷公菩提寺)での抹茶体験、映画ロケ地や吉備国際大学の見学 など

●参加費/大人2,500円、小人(小学生)1,500円 ●定員/20人

「本町町家通りの雛まつり」を開催 まち全体で お客さんを迎えよう

本町活性化委員会

副会長 前原 敏さん(71)

春の風物詩であった紺屋川の「桜まつり」がなくなってしまったこともあり、約1年前、本町活性化委員会で本町町家通りを生かした「雛まつり」はできないかという話が持ち上がりました。その後、高梁地域まちづくり推進委員会をはじめとする各種団体とともに実行委員会を組織し、開催に向けて具体的な計画を立ててきました。

本町町家通りの各戸に雛飾りを飾るほか、全国の珍しい雛飾りの展示、雛人形・雛飾りに関する講演、雛人形づくり教室なども計画しています。町並みバザール(売店)やおもてなしコーナーも設ける予定です。

まち全体でお客さんをお迎えしようと、実行委員会メンバーや地域のみんなと知恵を出し合いながら、現在、準備を進めています。

一人でも多くの人に会場に足を運んでいただき、楽しいひとときを過ごしてもらえればと思っています。

日時・4月7日(土)・8日(日)

両日とも午前10時から午後4時

※ 開会式は7日(土) 午前9時半(会場:人形の喜峯前)

会場・本町および紺屋川周辺

■問い合わせ 「町家通りの雛まつり」実行委員会事務局(☎0180)



おもしろいコト

たという声が多く寄せられています。こうした参加者の声も取り入れながら、19年度の事業内容を4ページの一覧のとおり計画しています。

観光で訪れた地で観たものは

もちろんですが、その地域の人のふれあいも、旅の思い出として心に残るものです。

観光客とあいさつを交わす、道を案内する。迎える側のちよつとした「おもてなしの心」が、高梁を訪れてよかった、また訪れたいと感じてもらえるきっかけになります。

市民一人ひとりの「おもてな

しの心」で、高梁を訪れる人々を温かく迎えましょう。

■問い合わせ 商工観光課(☎0217)、学園文化都市づくり協議会事務局(企画課内☎0209)

「吹屋往来」と道」 夢街道ルネサンスに認定

昔、「街道」は、単に物資の輸送路の役目を果たすだけではなく、多くの人・物・情報が行き交うことで、街道沿いの地域の歴史・文化をはぐくんできました。

中国地方の街道の歴史・文化・自然を再発見するとともに、それらを生かした地域づくりを支援しようと、中国地方の経済団体や行政などで組織する「夢街道ルネサンス推進会議」による夢街道認定制度が平成13年度に創設されています。

このほど、18年度認定地区に、「吹屋往来」と道」が選ばれました。

「とこ」とは魚。吹屋往来は、吹屋が銅山町として栄えていた当時、笠岡から毎日新鮮な



▲認定地区内の吹屋の町並み

魚を運んでいたことから、「と道」とも呼ばれていました。その吹屋往来と、ほぼ平行にある県道宇治下原線、高梁坂本線および市道宇治中央線の一部区間約10キロの沿道地域が、今回の認定地区となりました。

同地域では、宇治町、成羽町吹屋地区、中区の有志による「高梁市中央高原三地域懇談会」(座長・内藤孝さん)が、平成17年8月に発足し、これまでの地域の枠組みを超えた交流・まちづくり活動が進められており、今回の認定によって、一層の活動の活性化が期待されます。